

## 【今日の説教から】

先週は喜びあふれるイースター、主の復活をお喜びする日でした。しかし女性たちは生きている方を死者の中に探そうとしました、イエス様は確かに亡くなられて、その亡骸に香油を施そうと訪ねた女性たちからしたら無理からぬことですが、女性たちの、イエス様を死者の中に探す企ては失敗しました。そのことが無意味であることを天使たちははっきりと示し、主が語られた御言葉を思い出しなさいと言いました。

女性たちはそれと気付き、主の弟子たちのもとに戻り、事実をありのままに話しましたが、果たして弟子たちはそれを愚かな話、たわごと、ナンセンスで空虚な話と決めつけて信じませんでした。

私たちは見るべきものに目を留めず、思い出すべきものを思い出さず、信すべきものを信じることが出来ず、ナンセンスと決めつけて信じずに、しかし途方に暮れ、説明も出来ず、困惑するのみです。しかしそんな不毛な議論に明け暮れる者たちに近づき、寄り添い歩き、御言葉を熱心に解き明かして信仰へ、希望へ、勝利へと導いてくださる主が共におられるという事を知るとき、私たちの心はまさしく燃えるのではないでしょうか。

「キリストは必ず、これらの苦難を受けて、その栄光に入る」。私たちはこの主イエス様を見失わないようにしたいと思います。ですから私たちもまた困難を恐れません。私たちが主の苦しみに会うとき、主の復活にもあやかれると信じるからです(ローマ 6：5)。

皆様おはようございます。

昼は夏のような暑さを覚えつつも、場所によっては2日前ほどは氷点下の朝で霜が降りたというお話を聞きます。寒暖差の強い日々、どうぞご自愛ください。

先週は主の復活をお祝いするイースター礼拝でした。

しかしその時の信仰者たちの立ち居振る舞い、心の態度を見ますに、本当に人間の頑固さ、視野の狭さが際立っており、喜びの朝とは縁遠い日であったことが分かりました。

「あなたがたは、なぜ生きた方を死人の中にたずねているのか。そのかたは、ここにはおられない。よみがえられたのだ。まだガリラヤにおられたとき、あなたがたにお話しになったことを思い出しなさい。」

この鮮烈なお言葉が心にこだまします。私たちは墓の中に主のご遺体があるべきものと期待し、私たちの考えに合わないことは決して起こらないと、主の再三の復活の予告にもかかわらず、勝手に自分の頭で起こるべきこと、私たちがこの目で見るべきものを定めています。そして私たちは容易に希望を失い、失望落胆して物事を悪いように悪いようにと考えて途方に暮れるのです。主ははっきりと希望と勝利の出来事をあらかじめ語り、恐れるな、私は世に勝利したと語られたのに、弟子たちは天でその言葉を覚えてはいませんでした。彼らは、そして私たちは、目に見える現実の出来事にすっかりと心を奪われ、心の中の信仰の炎が立

ち消えてしまったかのようになるのです。

マタイ 16:21 この時から、イエス・キリストは、自分が必ずエルサレムに行き、長老、祭司長、律法学者たちから多くの苦しみを受け、殺され、そして三日目によみがえるべきことを、弟子たちに示しはじめられた。

ヘブル 11:3 信仰によって、わたしたちは、この世界が神の言葉で造られたのであり、したがって、見えるものは現れているものから出てきたのでないことを、悟るのである。

ヨハネ 16:33 これらのことあなたがたに話したのは、わたしにあって平安を得るためにである。あなたがたは、この世ではなやみがある。しかし、勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝っている」。

ここに二人の人がいました。彼にはどういうわけか、主の復活のその日、イエス様のお体が墓になかったという話題のもちきりの日に、そのエルサレムから 11 キロ離れたエマオの村へ行こうとしていたのです。

24:13 この日、ふたりの弟子が、エルサレムから七マイルばかり離れたエマオという村へ行きながら、

24:14 このいっさいの出来事について互に語り合っていた。

24:15 語り合い論じ合っていると、イエスご自身が近づいてきて、彼らと一緒に歩いて行かれた。

24:16 しかし、彼らの目がさえぎられて、イエスを認めることができなかった。

彼らはその 11 キロメートルの旅路の間、ずっと話し合い、論じ合い、質問をし合っていました。しかし彼らは結論に至ることはできませんでした。それは不可解なことであり、彼らは困惑していました。あんなにはっきりとイエス様は受難と復活の予告をされたのに。弟子たちはそもそもそれを聞いても理解できなかつたのでしょうか。

私たちも難しい講義を聞いた時や、外国語を聞く時など、どんどんと語られる言葉に自分の理解が追い付かず、言葉が頭の上を通り過ぎていくような経験をすることがあります。イエス様の受難の予告もそのようなものだったのでしょうか。言葉としては難しくなくても、彼らにとってイエス様が取り去られるという出来事、信じたくも聞きたくもないお話という事で、彼らの耳が蓋をして、心がその言葉を締め出してしまったのかもしれません。

折角語る希望の言葉、励ましの言葉が全く耳に入っていない。それで失望落胆し、天使を送

って御言葉を語るも、婦人たちは辛うじて思い出すも、弟子たちは愚かなたわごとで空虚でナンセンスと決めてかかり…。本当に本当に神様はおいたわしや、です。

目が閉ざされて真実が見えない。耳が閉ざされて救いの助けの、慰めの言葉が届かない。そうしたらどうやって助けることが出来るのでしょうか。

イエス様はいつともなく、そんな弟子たちの旅路の傍らに近く寄り添い、ともに歩かれるお方です。上の方から雲に乗ってメガホンで叱責の言葉を投げかけたり、雷を鳴らして警告を発したり、そういうことをせずにすっと傍らに寄り添って人生の旅路をともに歩かれるお方なのです。しかし彼らの目はさえぎられ、そこに主がおられるとは思わないのです。しかし私たちの人生には、無知蒙昧で頑固でかたくなで、主の御言葉を思わず、目に見える主の勝利を見ずに、私たちは自分の視野で、自分の価値判断で物事を読み解こうとして議論をして重ねても、何も分からぬのです。そして主はどこにおられて、どうして私たちのことをお見捨てになられ、私たちを独りぼっちにするのですかなどと語るのですが、主は私たちと共に歩いておられるのです。

24:17 イエスは彼らに言われた、「歩きながら互に語り合っているその話は、なんのことなのか」。彼らは悲しそうな顔をして立ちどまった。

「あなたたちは何を話しているのか。」主の勝利も復活も救いも真に受けず、愚かなたわごとだ、ナンセンスだと決めつけて堂々巡りでなされるその不毛な議論。主の復活も勝利も信じないで、受け止めないで、「なぜ生きた方を死人の中にたずねている」力なき議論。一体全体その言葉は何なのか。そんなことを話してなんになるのかとイエス様は嘆いておられるのではないでしょうか。

彼らはそんなことも知らずにやれやれ困った人だとばかりに、逆にイエス様の物事を知らないさまを非難します。陰鬱で、悲観的で、期待の持てない、陰気な心で、七面倒なことに巻き込まれた、なんて胸糞の悪いことをこの日とは言えのかという態度で彼らはイエス様にこう言いました。

24:18 そのひとりのクレオパという者が、答えて言った、「あなたはエルサレムに泊まっていながら、あなただけが、この都でこのごろ起ったをご存じないのですか」。

24:19 「それは、どんなことか」と言われると、彼らは言った、「ナザレのイエスのことです。あのかたは、神とすべての民衆との前で、わざにも言葉にも力ある預言者でしたが、

24:20 祭司長たちや役人たちが、死刑に処するために引き渡し、十字架につけたのです。

24:21 わたしたちは、イスラエルを救うのはこの人であろうと、望みをかけていました。

しかもその上に、この事が起ってから、きょうが三日目なのです。

ナザレ出身のイエス様は、「あのかたは、神とすべての民衆との前で、わざにも言葉にも力ある預言者」だったのに。「祭司長たちや役人たちが、死刑に処するために引き渡し、十字架につけたのです」。「わたしたちは、イスラエルを救うのはこの人であろうと、望みをかけていました」。それなのに、残念なことにそこまでには至らなかった。弟子たちの思いはそこで途切れてしまっていたのです。神様のお働きには壮大な麗しいエンディングがあるのに、信じるべき者たちは、その出来事を尻切れとんぼで勝手に終わらせようとしていたのです。

ここから先は彼らにとって不可解なストーリーという事になります。

24:22 ところが、わたしたちの仲間である数人の女が、わたしたちを驚かせました。というのは、彼らが朝早く墓に行きますと、

24:23 イエスのからだが見当らないので、帰ってきましたが、そのとき御使が現れて、『イエスは生きておられる』と告げたと申すのです。

24:24 それで、わたしたちの仲間が数人、墓に行って見ますと、果して女たちが言ったとおりで、イエスは見当りませんでした」。

さっぱり分からぬのです。困惑しているのです。失望しているのです。そんなことがあっていいわけがないと思っているのです…。このような人間勝手な思いの数々、オンパレードが、その羅列が今日に至るまで神様の前に積み重ねられているのではないでしょうか。

24:25 そこでイエスが言われた、「ああ、愚かで心のぶいため、預言者たちが説いたすべての事を信じられない者たちよ。

24:26 キリストは必ず、これらの苦難を受けて、その栄光に入るはずではなかったのか」。

24:27 こう言って、モーセやすべての預言者からはじめて、聖書全体にわたり、ご自身についてしてある事などを、説きあかされた。

やはり解決は聖書の中にはあります。イエス様は私たちの人生の途上にあって、私たちが用意に聖書の言葉を忘れて自己流に進み、自己流に解釈して沈み込む、その状態の私たちと共に歩いて私たちに御言葉を解き明かされるのです。

24:28 それから、彼らは行こうとしていた村に近づいたが、イエスがなお先へ進み行かれる様子であった。

24:29 そこで、しいて引き止めて言った、「わたしたちと一緒に泊まり下さい。もう夕暮

になっており、日もはや傾いています」。イエスは、彼らと共に泊まるために、家にはいらされた。

24:30 一緒に食卓につかれたとき、パンを取り、祝福してさき、彼らに渡しておられるうちに、

24:31 彼らの目が開けて、それがイエスであることがわかった。すると、み姿が見えなくなった。

24:32 彼らは互に言った、「道々お話しになったとき、また聖書を説き明してくださいたとき、お互の心が内に燃えたではないか」。

24:33 そして、すぐに立ってエルサレムに帰って見ると、十一弟子とその仲間が集まっていて、

24:34 「主は、ほんとうによみがえって、シモンに現れなさった」と言っていた。

イエス様のあの聞きなれたパンを祝福するお祈り…。彼らが気付いた時にはもうイエス様のお姿はありませんでした。彼らは再びそのお姿を見ることはませんでしたが、彼らは心を燃やす御言葉と共に、疲れをも暗さをも物ともせずに、「一緒にお泊まり下さい。もう夕暮になっており、日もはや傾いています」との言葉に反してエルサレムに取って返し、イエス様の真実を分かち合おうと小躍りしながら、喜びのもとに走り戻ったのです。

イザヤ 40:28 あなたは知らなかつたか、あなたは聞かなかつたか。主はとこしえの神、地の果の創造者であつて、弱ることなく、また疲れることなく、その知恵ははかりがたい。

40:29 弱つた者には力を与え、勢いのない者には強さを増し加えられる。

40:30 年若い者も弱り、かつ疲れ、壯年の者も疲れはてて倒れる。

40:31 しかし主を待ち望む者は新たなる力を得、わしのように翼をはつて、のぼることができる。走つても疲れることなく、歩いても弱ることはない。

私たちも主の御言葉の間に間に、心燃やされ、主の勝利の力に背を押していただき、人生の行路を辿らせていただきたいと願います。

◇祈祷；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。

見るべきところを見ず、聞いて覚えているべきところを忘れ、心をかた

くなにして判断をも誤り、神様の栄光ある力強いお働きをたわごと、ナンセンスと切って捨てるような愚かなものですが、あなたは見限らず、裁かず見捨てず、あなたご自身が不毛な議論に明け暮れる者たちに近づき寄り添いともに歩き、御言葉を解き明かして信じるべきことを明らかにして、堅い殻に閉ざされた心の目を開かせ、心を燃やし、希望と救いを与えてくださいますからありがとうございます。。どうぞあらゆる苦しめる方々を神様の救いと平安の中にお導き下さい。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。私たちをお用い下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン